

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援ひだまり			
○保護者評価実施期間	令和8年1月21日		～	令和8年2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数)	42
○従業者評価実施期間	令和8年2月15日		～	令和8年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月1日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・早期から個別療育で専門的にかかわること で言語・コミュニケーションの力を育てる。	・インリアル研究会や大阪LDセンター等の講習会等を積極的に受講し、事業所内で共有をはかることで全体の支援の質を上げている。 ・事業所内でビデオ分析を行い、全体でかかわりの目標や具体的なやり方を共有する。	・個々の職員のかかわりの質を上げるため、研修を行ったり事業所内で相談がしやすいような環境を作ったりしていく。
2	・言語獲得のために必要な認知の力、感覚・運動の力を併せて育てる。	・感覚統合学会や大阪LDセンターの講習会、ABAの講習会、PECSの講習会、発達検査等様々な分野の講習会に参加し、根拠のある支援ができるよう評価法やかかわりについて学んでいる。 ・設備や教材等それぞれの興味や内容にあったものをそろえている。	・子どもの発達を総合的にとらえられるように、脳機能や発達の順序等を学び、行動の分析に繋がる知識を増やしていけるように広く学びの機会を設ける
3	・集団療育を行う中で、自身を知り他児と かかわる力を育てる。	・集団療育では子ども5～6人に対し4～5名の職員で丁寧にかかわり、他児とのかかわりを支援している。 ・他児とのかかわりの中で自身の体や気持ち等を意識する課題を設定したり、協力や相談したりする状況を作り練習する機会を作っている。	・保護者の繋がりにも目を向け、情報共有をしてもらいやすい環境づくりを行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・送迎を行っていない。	・保護者同席に理由があり、敢えて送迎をしていないため。	・送迎がない分ご家族としっかり連携を図り、いつでも対面でやりとりができることが強みとなるように支援をしていく。
2	・平日しか営業していない。	・職員の支援の質を上げるために土曜日に勉強会等に参加しやすいように休みにしている。また、全職員が利用者さんの情報を共有し支援しやすいようにシフト制にしておらず週5日の開所としている。	・土日祝休業していることによる施設の長所もあるため、それを実感していただけるような支援を提供していく。
3	・就学後のフォローが難しい。	・児童発達支援のみで放課後等デイサービスを行っていないため、子どもの就学語のフォローを継続的に行うことが難しい。	・就学に向け、アセスメントをきっちり行い子どもの現在の様子で就学して予想される困難や対応についてできるだけ事前に保護者や就学先と情報を共有できるようにしていく。